

ぼくの周りの田んぼ

長久小学校 四年 渡邊 良太

ぼくは、夏休みにおじいちゃんやおばあち
 ゃんが住んでいた富山町の家に行きました。
 そこに行く途中で、竹林や林になつて、いる土
 地をみました。だんだんになつていて、ふし
 ぎな形をしていました。話を聞くと、そこは
 三十年前まで田んぼだ、たようで、みんな
 で米作りをしていたそうなんです。話を聞いて
 ぼくは、本当に田んぼだ、たのだらうかと思
 いました。

ぼくが住んでいる長久町も、周りに田んぼ
 がたくさんあります。ぼくは、夏休み中は毎
 朝走つて、いるので田んぼの様子を見ます。春
 には、トラクターで土をたがやしています。
 たがやした土を見ると、これから米作りが始
 まるのだなと感じます。その後、田んぼに水
 がはらわれていきます。田んぼの中にはオタマ
 シヤクシヤ、カエルがたくさんいて、鳴き声
 が聞こえてきます。田植えが始まると、トラ

クターとはちがう形の田植え機が登場します。
 ぼくが体験したことがある田植えとはちが
 えて、ものすごい速さで田植えが進んでいきま
 す。保育園や小学校でした田植えは、一つの
 田んぼを何十人かで植えて、楽しかったけど、
 すぐくつかれました。機がいたとみんなでも
 るより楽にたくさんある田んぼを植えていく
 ことができます。田植えが終ると、苗は必
 んとんせが高くなるといえます。もうこんな
 に大きくなるとのたなとおどろくこともあり
 ます。夏になるととん田んぼの緑色が、
 こくなるといえます。高さはハサセチくぐら
 いになつていいます。夏休みの終りごろには、
 緑色のぶが先っぽについています。田んぼ
 の水も少なくなるといたり、ほとんどなくな
 るといたりします。秋になると、たんたん
 いるの形になつていいます。色も黄色っぽく
 なつていて、最後にはぼくの走るコースに黄
 色の景色が広がります。景色がきれいで、走
 っていて気持ちがよく、風がふくと稲がゆれ

米ができているのだと思います。

田んぼは、毎年使うことで、かんきょうが保たれて、ぼくが毎日食べるお米ができるのだと思います。一度やめてしまうと、富山の田んぼのように、どんどんあれていってしまっています。だから、これから先もお世話を続けたい人がいなくならないようにしたいといかないのだなと思います。ぼくはまだ米作りについて知らないことかたくさんあるので、これからも勉強していきたいです。

このカサカサな音もうえしい気持ちになりました。稲刈りも保育園と小学校で体験しました。かまを使って稲をかりました。が、サク、とかる感じがとても楽しくて、夢中になっ。てがりました。運ぶのは大変だ、たけど、よい経験でした。ぼくの家周りの田んぼは、いつの間にかかり取りが終わっています。これも機械かいが活やくしているからです。米作りでぼくが知っていることはまだ少ないけれど、きつとたくさんさんの手間をかけて、一つのお